福島敏夫随筆集『乙戸南雑話「花鳥風月および星・虹を愛でながら」

主宰論説５８

3 つの城：犬山城、熊本城、松本城

世界遺産の姫路城（兵庫県）、国宝の彦根城（滋賀県）、琉球王国の首里城（沖縄県）、西洋式の五稜郭（北海道）など、日本名城１００選にもあげられる城は、ほかにもいろいろある。江戸時代までに築城され、現在まで天守閣が残っているお城は 12 あり、「現存 12 天守」と呼ばれているようである。

しかし、ここでは、特に、犬山城、熊本城、松本城の 3 つをとりあげて、その景勝、それに関わる逸話、名所・旧跡として訪れた想い出について、まとめておきたいと思い、ここで述べるものである。この 3 つは、珍しく、私自身も実際に、天守閣までに登ったことがある城である。

１）犬山城

犬山城（いぬやまじょう）は、尾張国と美濃国の境、木曽川南岸の地「犬山」（愛知県犬山市（旧丹羽郡)）にあった日本の城。天守のみが現存し江戸時代までに建造された「現存 12 天守」の一つである。また天守が国宝指定された5 城のうちの一つである（他は姫路城・松本城・彦根城・松江城)。城跡は「犬山城跡」として、国の史跡に指定されている。日本で、つい最近まで個人所有であった珍しい山城の例である（2004 年まで成瀬氏が個人所有していたが、維持管理が 難しくなったとのことで、犬山市所管に変わっている）（ウィキペディア日本語版より)。

この犬山城には、日本建築学会が、中部工業大学（当時：現在中部大学）で行われた時と、マテリアルライフ学会が、名古屋工業試験所で行われた時を含めて、名鉄を使って、２回ほど訪れている。急な階段を上って天守閣に達し、犬山市の城下町を眺め、木曽川流域の絶景を楽しんだことがある。岐阜市の金華山にある岐阜城は、岐阜市内全体を眺望できるという妙味があるが、この犬山城は、犬山市からは少し離れた山の突端部に築かれ、人工と自然の絶景の組み合わせという別の妙味を楽しめるようである。

２）熊本城

熊本城（くまもとじょう）は、熊本県熊本市中央区（肥後国飽田郡熊本）にあった安土桃山時代から江戸時代の日本の城で、その姿・形から、別名「銀杏城（ぎんなんじょう）と言われる。加藤清正が中世城郭を取り込み改築した平山城で、加藤氏改易後は幕末まで熊本藩細川家の居城だった。明治時代には西南戦争の戦場となった。西南戦争の直前に大小天守や御殿など、本丸の建築群が焼失したが、宇土櫓を始めとする櫓・城門・塀が現存し、13 棟（櫓 11 棟、門 1 棟、塀 1 棟）が国の重要文化財に指定されている。また、城跡は「熊本城跡」として国の特別史跡に指定されている。１０年前の２回連続した震度７の揺れに見舞われた熊本・大分大地震の際、重大な被害に遭ったが、復興のシンボルとして、天守閣は、再建され、その勇壮な姿を見せているようだ。（ウィキペディア日本語版等による）

北九州市立大学に在籍時、熊本城の天守閣に登り、鉄筋コンクリート（RC）造の天守閣の部屋の空調具合の調査に参加したことが、懐かしく思い出される。また、家族で、熊本市の観光の際、水前寺公園とともに、広大な熊本城趾公園を訪れたこともあった。天守閣ばかりでなく、いくつかの櫓が連携して防備を固める典型的な平城のようである。

追記：
2026年11月7日

２度の震度7の熊本大震災で、かなりの被害に見舞われたが、復興のシンボルとして再建された天守閣は、残って、その姿を見せてくれているのは、すばらしいことだと思われる。

３）松本城

松本城（まつもとじょう）は、長野県松本市（旧・信濃国筑摩郡筑摩野松本）にある日本の城である。松本城と呼ばれる以前は深志城（ふかしじょう）といった。天守は安土桃山時代末期-江戸時代初期に建造された現存天守の一つとして国宝に指定され、城跡は国の史跡に指定されている。天守が国宝指定された 5 城のうちの一つである（他は姫路城、犬山城、彦根城、松江城）。 戦国時代、小笠原氏の居城のひとつであったが、武田信玄の信濃国の制覇の後約３２年武田氏の支配下にあった。徳川家康の家臣の一人だった石川数正が、内輪もめかと思われる結果として、豊臣方についた事に由来する事蹟も多い。彼が、深志城を改築して築いたが、紆余曲折を経て、現在に到る。（ウィキペディア日本語版等より）

約 45 年位前、富山に帰省した後、つくばに戻る予定の晩夏の頃、妻の実家の義弟夫婦の取り計らいも

あり、立山・黒部アルペンルートで立山・後立山連峰・黒部第 4 ダム湖を縦走した後、長野県側の白馬山遭連峰を横に見ながら、大町まで行った。大町から、中央本線で新宿に向かう時、途中、松本で下車して、松本城趾を散策しながら、夕日に映え、堀の水面からそびえる黒塗りの松本城を見つめ た。北アルプスの山々を遠くに見ながら、天守閣からの眺望を楽しんだ。白壁塗りの白鷺城とも言われる姫路城と対比すると、黒鷲を思わせる重厚さがあるようである。